

教科書とかに載っていて名前は知っていたけど、沢山の人の命を救ってすごいと思った、用水路を作ろうという行動力、そして完成して乾燥地帯から森にした功績がすごいと思った
中村哲さんは医師であり、土木の経験がなくても、日本の技術を使い用水路を作り、洪水などの災難に見舞われますが、諦めずに用水路を復活させ、森に生まれ変わるの、すごかったです。なのでチャレンジし続けることは大事だと思いました。
中村さんのアフガニスタンでの活動は、とても自分にはできないと思った。中村さんの自然に対するの考え方は謙虚で自然に対してそんなふうに思うことが、自分には想像できないことを体験していて、それをメディアを通じて伝えることはありがたいことだと感じた。
中村さんの人生にも限りがあるのにアフガニスタンの人々の限りある人生を少しでも助けたいという思いで医師もしながら、用水路の建設もして、とても素晴らしい人だと思い、感動しました。
利害に耐えに耐えているアフガニスタンの人々のために「マルワリート用水路」を設計して街に緑を与え、農業を復活させた中村さんはアフガニスタンの英雄であり、今後の生活で活用できそうなことばかりだった。何年もかけて信頼を得ることを学んだ。生徒会と当てはまることだと実感した。
アフガニスタンでの医師活動や堰を作り、莫大な数の人々を救った中村哲さんは日本人としての誇りだと改めてこの映画を通して思った。
中村さんの平和に対するの捉え方が、私とは思ってたのと違ったので驚きました
中村哲さんのアフガニスタンに対する想いが映像を通じて少しわかった気がした。医療だけでなく、食料支給や新たな用水路の建設、そして教育ができるところも建設してとても道徳のある人だなって思った。2019年の時間で亡くなられてしまったが、中村さんに教わった人や関わってきた人がアフガニスタンを支えるようになっていて、これからもアフガニスタンをささえていくんだなって思った。
最初、診療所を作った時はまだ村人たちに信用されておらず手を出しても握手を返して貰えていなかった。しかし、食料調達や用水路作りをして信頼を獲得していて、信頼は一朝で得るものではないという言葉が深く心に刺さった
中村先生の人柄と想いが伝わった
今回の公演は、知らないことをいっぱい知れて、とてもためになった。医者がいなくて、病気になって神頼みなことや飢餓は私の身近ではないから、その深刻さを改めてしれて良かった。医者が人のために井戸をつくるというすごいことをして、何十人、何百人の命を救った中村哲さんを昨日までの私みたいに知らない人が沢山いるのがもったいないと思った。アフガニスタンに水路が出来て、緑、食べものなど、色々なものができて、1人が行動したことで、最後子供たちの笑顔が見れてよかった。中村哲さんは人を救うために自分の家族を捨てたのに、最後は人に殺されるのが残酷だと感じた。また、少しの募金でも、救える人が沢山いることを知った。
人は信頼関係が大事だと感じました。中村さんの、人のために病気を治そうとすることや、飢餓をなくそうとする気持ちが映画で伝わってきました。
中村さんの人を助けたいという想いから診療所での活動や建設活動を続けるという諦めない気持ちが素晴らしいと思いました。
今回のゼミナールを通して、本当の平和についてを考えさせられました。今でも戦争が起こっている国がある中で、まずはどうやったら戦争が無くなるかを第一に考えることが前提で本来の平和は今私たちが過ごしている生活を継続させることということがわかりました。今の生活が当たり前だと思わずに感謝していきたいと思います
アフガニスタンの人々と中村先生の強い絆と互いに励ましあっていく団結力でアフガニスタンを豊かにしていく嘘のような本当の話に感動した
今回の土曜強要ゼミナールを受講して、人と自然が密接な関係を築き、平和を作り上げていることに感銘を受けました。無医地区に医師として訪れた中村さんが、人々の健康だけでなく、その土地の自然にも気を遣って、土木技師として用水路を作ったことはとても行動力のあることだと思いました。
今回の講演を聞いて自分は赤の他人それも文化も言語も違う人に対して行動できる中村さんをすごいと思えたと自分をそうやって他者のために動ける人間になりたいと思えた
中村さんを追いかけてた谷津さんの話を聞いてアフガニスタンには深刻な過去があり、それをどうにかするために動いた中村さんに感動しました。人は見ようとするものしか見えないという言葉がすごく頭に残っています。橘学苑だけでなくこれを全世界に知ってもらいたいと思います。
中村さんが平和の捉え方が私たちとは全く違って驚きました。けれど言われてみれば確かに中村さんの思っている戦争が終われば平和という考えは違うなって思いました。同じ生きている時代にお医者さんなのに、用水路を作るなんてすごいなって思いました。
35年もの間で多くの人から信頼を得るほどの功績を残し、人のために動き続けたことに感動した。中村先生が大事にしていた一隅を照らすという言葉は私たちにも響く部分があると感じた。
中村哲さんは人生をかけるほど人の命を助けることに強い思いがあったんだなと思いました。私は何をやるにしても自信が持てず、中村哲さんも自信とはまた別かもしれないけど、ここまで人のために何か出来る人なんだと思いますすごい人だと思いました。
中村哲先生からは、人を敬愛する大切さを学ぶことが出来た。人のために尽くすことが中村先生にとっての正解の道であると思った。私は中村先生のように人のために尽くす他にも自分なりの正解の道を探していきたいと思った。監督からもその上品な言葉遣いや、感性も素敵だと感銘を受け、監督のように人をよく見るということもこれから大切にしていきたい。そう思える講演会で有意義な時間を過ごさせて頂いた。
実際に監督が来て話をするのは貴重な機会になった。誰かのために頑張れる人になりたいと感じた
厳しい環境の中でもアフガニスタンの人々を救うために畑や医療を提供している姿を見て心を打たれました
谷津監督、担当者様、ありがとうございます。貴重な時間を頂きました。中村さんの事だけでなく、谷津さんについてももっとお話を伺いたかったです。時間に限りがありますが、公演が短く感じました。谷津監督オーアあります。
中村哲さんの貴重なお話を聞いてとても心に残りました。たとえ言語が違くとも現地のみんなの力で水路を作り砂漠に緑を蘇らせたことがすごく印象に残りました。中村哲さんはどんな人でも見捨てずきちんと診療をしてとても寛大な人だと思いました。また機会があればもう少しお話を聞いてみたいと思いました。
素晴らしい企画をありがとうございます。よくテレビなどで観ていた中村医師がより身近になった感じがします。中村医師のように誰にでも平等で献身できるような人間になりたいなと思いました。
以前から中村さんの活躍を知っていましたが、中村さんの強い思いに触れて、なぜこれほど人々のために尽力したかがわかりました。講演のなかでとても心に残ったのは「一隅を照らす」です。周りの評価ばかり気にして、良い学歴や功績を残さないと社会から取り残されてしまうのでは、と気にしていましたが、この言葉に出会って、誰しもが見て見ぬふりをして影となってしまっているところに希望の光を灯せる人こそ本来の人間のあるべき姿だと思いました。私は将来、教員になるという夢を持っています。教員になっても今回学んだ大切な言葉の一つ一つを思い出して、学校に来たくても来れない、学校にいても居場所がない、といった子供達をサポートし、光を当ててあげられる人間に成長していきたいと思いました。
中村哲さんの人のために生きる人生が感動した
とても良い話でした。あまり知らない海外の話を知るのが嬉しかったです。
中村医師の人道支援活動が驚異的なのは言うまでもなく、それを21年間丁寧に記録し、映画を通して伝え紡ぐという仕事に感服した。また鑑賞に来ていた学生の反応もポジティブに見え、この作品を教育現場に持ち込んだ企画も素晴らしいと思った。
子育てをして、子ども達がみな優しくてもっと強くいかなきゃと思っていた時期がありました。今日は子どもとも一緒に見ることができ、わたしが信じてきた人の価値は優しさで決まると言われ、間違っていなかったと感じることもできました。素晴らしい会をありがとうございました。
教養ゼミナールに初めて参加しました。こんなに近い場所で谷津監督のお話を聴けるなんてなかなかない機会なのでとてもありがたかったです。土曜ゼミナールとしてだけでももったいない気がしました。今回希望していなかった子供達も、観れば(聴けば)何か感じるものがあったのでは...と思うと、全校生徒に視聴してほしかった内容です。親になって日々模索しながら、ああでもないこうでもないという試行錯誤の日々、これはうまくいったこれは失敗だったの繰り返し。でもやっぱり、親子も人間同士。「気持ち」が1番大切だな、人に優しく、温かな気持ちで人と向き合える子に育てほしいと奮闘してきたこれまでの子育てを肯定していただけた気がして救われました。「犬も歩けば棒に当たる」、解釈違えど、この年まで生きてきて、ウロウロして寄り道回り道行き止まりも多かったけれど、中村先生の人生のように、「これだ!」「幸せだ」と思える未来に出会えることを楽しみに、まだまだウロウロしていきたい、すごく笑えるけど意味深い言葉を教えてくださいました谷津監督にも感謝です。このような機会を設けてくださった先生方、ご尽力いただきありがとうございます。また次回も期待しています!
中村医師のことはテレビニュースで存じておりましたが今回初めてそのお姿、偉業、生き様を映像を通してじっくり拝見させていただきました。その人間性にまるで雷に打たれたかのごとく衝撃と深い感銘を受けました。正しく勇敢で胆力もあり何よりその暖かいお人柄が誰からも慕われしんらされた中村先生。お亡くなりになられたのは悲しく非常に残念なことでありますが、アフガニスタンの人々の心に先生の優しさや遺志が引き継がれ希望の灯がともしり明るい展望が見え明るい気持ちになったのは私だけではないと思います。谷津監督の講演会も素晴らしいものでした。数々のエピソードから先生のお人柄が伝わりました。すてな監督さんです。家族、友人、知人にもこの映画をお勧めします。橘学苑の創立の精神そのものですね。土曜ゼミナールは部活動をしている生徒は参加が叶いません。是非とも全生徒に卒業までには何らかの形で一度見せてあげて欲しいと切に希望します。どうぞよろしく願いいたします。この度は貴重な機会を作っていただきありがとうございます。
とても感動いたしました。「良い音だね」と中村哲先生が言った言葉の中にどれだけの喜びがあったかと思えます。私達は現在この平和を守り精神を共有していかなければならないと教えていただきました。「一隅を照らす」行動を心に刻んでいきたいと深く思いました。谷津監督様のお話を聞いて中村哲先生のお人柄がよくわかり、益々尊敬の念が尽きませんでした。ありがとうございました。

見終わったあと、感動というより、何とも言えない気分になった。病気の息子を気にはかけていたが、それより講演や現地支援をする彼を動かすものは何なのか、とても考えさせられた。究極の無償の愛と言うのだろうか。用水路の建設だけではなく、それに伴い、モスクや学校、後のメンテナンスなど一時しのぎではない作業をしたところが素晴らしいと思った。ぜひとも、土曜ゼミナールだけでなく、生徒全員に向けて、上映して欲しいと思います。一つ疑問に思ったのは、用水路建設に関して、どこか一社でも日本企業からの援助はなかったのだろうか？やはり安全のため？少しでも政府が資金を出してくれたら...と思いました。

かねてより子どもにも観せたいと思っていた映画を招致していただき、学校の先生方に感謝申し上げます。本とはまた違い、心に強く訴えかけられる感じがいたしました。中村先生の生き様から語られる問いや、谷津先生のお人柄からあふれ出る今回の作品と講演を、子ども共々心に留めて参りたいと思います。

「後を向いたら、だれもいなくなっている。」人間関係ではなく、私は逃げださないと考える人になりたいと思います。監督の映像は前からYouTubeで見っていたのが分かりました。元の映像は監督の1000時間だったとわかりました。

非常に学びを得ることのできた貴重な機会でした。

以前本校で使用していた教科書に、中村先生の荒野に水路をつくる話が載っていました。ちょうどその年に凶弾に倒れたニュースがあり、生徒と共にショックを受けたことを覚えています。中村先生の生き様、覚悟、人柄をより深く知ることができました。目の前の仕事を日々、一生懸命に前を向いて進んでいこうと思います。ありがとうございました。

見たかったけど機会を逃していた映画をやっと見られてよかったです。監督のお話でも中村医師の素顔に触れることができたような気がしてよかったです。はじめ医師として活動を開始した中村さんがどのように「仕事」の重点を移していったのか、その様子を監督がどうぞ覧になっていたか、もう少しお聞きできたらと感じました。ともあれ大満足のイベントでした。勇気をもって発言された生徒諸君にも敬意を表します。

朴訥としたお人柄の中にも一つひとつの言葉の強さ、繊細さを感じ、中村先生の魅力が存分に詰め込まれた映画でした。高校1年生に対し創立の精神、学苑教育をする延長線上で、ぜひ全員に見せたいと思いました。

誰もが目を背けてきた状況に「どうにかしないと、助けないと」という思いで目の前の困っている人々を救う姿にとっても心を動かされた。さらに自分の専門でない用水路建設をアフガニスタンの人々の生活のために行う中村先生は常に人のことを考えていたということに私もそんな人になりたいと思った。そして用水路建設の際には自然の脅威から逃れることはできないけど私たちは自然の恵みを頂いているから自然を大切にするという考え方がとても素敵であると思った。中村先生のこの半生から平和のあり方を学ぶことができた。中村先生の思い描いた世界を次は私たちがつくっていかねばならないと強く感じた。

昨日は、心が興奮状態でなかなか言葉になりませんでした。こんなに切ない苦しみがあるのかと思った一方で、これほど温かく大きな感動があるかしらと、込み上げるものが多くありました。少し時間が経ち、冷静さを取り戻したところで考えるのは、「今の日本には、水も食料も医療も教育もインフラも高水準である環境なのに、自分を幸せだと思えない人がいかに多いか」ということです。アフガニスタンの人々と比べようもないほど幸せなはずなのに、心の病にかかると多く、10代で命を絶つ人が増えています。よく「日本は大事な何かを置き忘れて成長してしまった」と言われますが、それは中村哲さんのような慈しみの心なのではないかと思いました。困っている人がいれば手を貸そうと人が集まり、泣いている人がいれば抱き寄せる人がいて、理不尽には手を取り合って立ち向かうという人々の心の触れ合いが、真の心の平和をもたらすのだと改めて感じました。心の平和が生きる希望となることを、母として教師として肝に銘じておきたいと思いました。同時に、情報や物が溢れかえり、心や頭を空っぽにしても日々が忙しくそれなりに過ぎてしまう今の状況下で、心の平和を見失わないようにするには相応の覚悟があると唸っているところでもあります。原点に立ち返る貴重な時間をいただきました。ありがとうございました。

中村哲先生については、NHKの報道などで存じ上げていましたが、そのお人柄やお子様は5人いらっしゃったことなどは全く知りませんでした。現地でのご苦労や諦めない心、実践を大切になさったことなど、常に前を向く姿勢を学びたいと思います。まさに「一隅を照らす」です。この言葉は、「誰も注目しないような片隅のことをきちんと取り組む（人こそ尊い人である）」という意味で中村哲先生の人生そのものと思いました。ペシャワール会が永続することを祈ります。